令和5年度　大田区立大森第三中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

◆教育目標　社会の一員としてたくましく生き抜く人間性豊かな生徒の育成をめざし、以下の目標を掲げる。
○人権尊重の精神と態度を育てる。 ○豊かな情操と健全な心身を育てる。 ○自主性を伸ばし創造性を育てる。 ○自ら進んで学ぶ態度を育てる
◆学校規模　生徒数485名、学級数14学級
◆本校特色 ○地域行事・ボランティア活動参加（新井宿福祉園運動交流会、ガーデンパーティ、新井宿スペシャルデー、ユニバーサル駅伝伴走、新井宿児童館親子デー、自治会連合運動会、山王三・四丁目自治会子どもまつり・防災祭、入二小フェスタなど）
○生徒会や各種委員会を中心とした生徒主体の活動（生徒会朝礼、SNS学校ルール策定、いじめ撲滅運動、など学校行事での実行委員会組織による企画・運営など）
○学校運営協議会を中心とした学校・地域協働体制による、学校運営の基本方針の承認や、課題解決に向けた検討等学校運への参画
○スクールサポート三中を中心とした学校支援のコーディネートによる充実した教育活動の展開（図書室ボランティア、職業講話講師、職場体験受入先、土曜補習教室講師、部活動支援、英語検定、漢字検定試験監督、ガーデニング）

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	取組評価（上段 今年度／下段 昨年度）	目標に対する成果指標	成果評価（上段 今年度／下段 昨年度）	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	○	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3 3	4：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ80%以上。 3：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ60%以上。 2：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ60%未満 1：生徒への学校教育活動点検アンケートの設問の回答がそれぞれ40%未満	4 4	未来社会を創造的に生きる子どもの育成にむけて、学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指すことで、基本的な学力の定着の確保とそれを基盤とした論理的、科学的な思考力の育成が大切である。令和5年度の学習効果測定において、理科の状況において区の平均正答率を上回り、数学の状況において区の平均正答率とほぼ横並びの状況となっており、今後も授業などでの体験活動を取り入れた理数教育充実に取り組んでいく。また、生徒用タブレットの授業への導入と教師用タブレットを活用した視覚に訴える授業改善に全教科を通して実践を継属的に実施することで、生徒保護者アンケートで、「学習内容をわかりやすく理解できる」という項目で、85%の肯定的回答を得た。こうした状況を踏まえ、これからもタブレットの効果的な活用については、ICT支援員などの活用や教員研修の実施、授業実践を継続していく。また、まなびポケットなどの効果的な活用により、今年度も配布物や連絡事項、アンケートなどにICTを活用して取り組むことができ、今後も学校と家庭、生徒とのつながりのICT化をいっそう推進していく。また、生徒の使い方についても、生徒にきまりを考えさせ、主体的に取り組ませることで生徒の意識に働きかけていくことが課題である。また、人権教育については、アンケート結果で、「一人ひとりが大切にされ人権が守られている」という項目で92.5%の肯定的評価を得ている。こうした結果を踏まえ、道徳の授業を計画的に実施し、道徳の授業を要として学活や総合的な学習の時間や教科指導において人権教育を推進し、他者を尊重する思いやりを育む指導を継続して推進していく。	A	11	学習内容を分かりやすく理解させるためにも、ICTの効果的な活用を図っていたたきたい。また、学力の定着とともに充実した人権教育の推進が図られることを期待しています。また、ICTの活用は伝達の面でも便利である。今後も推進されるとよいと思う。人権教育の推進について、現状の生徒の様子は、92.5%が大切にされていると回答されていて、生徒が安心して学校生活に取り組み、守られている人権環境となっています。これからも学校には思いやりの心をもてる指導を、道徳の授業など教育活動全体で指導を継続していただきたい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3 3				B	0	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4 4				C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3 3				D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3 3						
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4 4	4：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ80%以上 3：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%以上 2：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ60%未満 1：学習に積極的に取り組めている生徒の割合と学習効果測定の校内平均正答率が区内平均正答率を上回っている割合がそれぞれ40%未満	3 3	学習カルテを三者面談で活用することで、日頃の学習の定着や理解について生徒・保護者と共通理解を図ることができた。また、区学習効果測定の結果や教科の評定、各教科からのアドバイスや数学チェックシート等を資料として活用することで保護者・生徒にとって学習への取組を振り返り、改善を図る機会とすることができた。評価の総括方法など教師が見直し、定期テストのみの評価とするのではなく、授業におけるさまざまな活動を見取り、生徒の成長を見通した多面的な評価を行うようにしている。その結果、生徒からさまざまな面で評価してくれているという設問に86%が肯定的評価を回答した。ただし、家庭学習を大切にしているでは79.1%、宿題や課題などの提出物には気を付けるでは88.7%がそれぞれ肯定的に回答し、昨年度を下回っている。そして、学習効果測定の結果全校平均正答率は63%と区の平均を若干下回り、達成率は64.7%となっている。生徒のアンケート結果では、説明をよく聞き積極的に取り組めているが89.9%で、授業に取り組む姿勢について前向きな姿を表しているが、取り組む姿勢として課題は残り、それが学習の定着度に関連している。なお、学習効果測定及び全国学力調査、学力向上を図るための調査の結果を分析して、教員に示し、結果の分析と授業改善に取り組んでいる。日頃の授業の中で基礎基本の定着と思考力の育成の視点で授業改善を図ることで、本校の課題である生徒の学力の向上を推進していく。	A	10	評価については定期テストだけでなく、提出物や授業の取組など様々な面で評価していただいている点は、生徒が安心で学校生活に取り組めることにつながる。また、家庭学習については家庭の協力が大切である。三者面談などで、保護者にも見える工夫がされていることがわかります。これからも連携を図っていくこと、そして家庭学習の大切さを生徒に投げかけることも大切です。また、学校から課題をはじめ、補習教室など「自分にもできる」という手ごたえを感じられる機会を多く設定することで、基礎基本の定着が図られて、家庭学習の定着につながると思います。学校の対応も大変でするが、ありがたいと感じる保護者は多いと思います。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3 3				B	1	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	4 4				C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4 4				D	0	
		基礎基本的な学習内容を確実に定着させるため、精選した課題を与えて家庭学習時間の増加を促す。	4：家庭学習を大切にしている生徒の割合が80%以上。 3：家庭学習を大切にしている生徒の割合が60%以上。 2：家庭学習を大切にしている生徒の割合が40%以上。 1：家庭学習を大切にしている生徒の割合が40%未満。	3 3						
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3 3	4：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が80%以上 3：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が60%以上 2：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が60%未満 1：WEB・Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が40%未満	3 3	WEBQUでは、「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答は71.1%であった。学校生活アンケートで、学校生活に満足しているの項目の肯定的回答は91.8%であり、全体的には、楽しい学校生活を過ごしている生徒が多いと考えられる。しかし、WEBQUでは、学校に行きたくないことがあるの項目で、34.7%が少なくとも少しは考えたことがあるに回答しており、生徒にとって居心地のよい環境づくりは継続的な課題である。こうした学校生活の実態を表したデータをもとに、担任や学年で分析することで、共通理解を図り指導に反映させるよう、組織的に研修会等を実施している。さらに、いじめ調査やふれあい月間等の取組を通して、生徒の実態を把握し問題を抱える生徒に対して個別の支援が行えるよう実態把握を行い、面談など聞き取りに取り組んでいる。さて、学校が落ち着いた状態であるに対しては、生徒の78.8%が肯定的に回答し、全体的には落ち着いた学校生活が送れているが、授業によっては騒がしくしてしまうなどと反省すべき点もあり、生徒に考えさせる指導を行い、改善を図っている。また、不登校生徒については学校の課題であり、本年度の不登校生徒出現率は6.3%である。精神的な疾患等で事由があるケースもあるが、それでも5.5%と高い水準で推移している。東京都の令和4年度の出現率が6.85%と急激に増加している点を考慮すると、現状維持の状況は今一歩とどまっているように見える。これも、不登校対策として、支援委員会を定期的に実施し、学年・学校の共通理解を推進して、組織的に対応していることと、別室対応や登校時間の柔軟な対応、登校支援員の活用などの取組の結果と考えられる。今後も、子ども家庭支援センターやSSW、児童相談所などの外部機関や児童委員など地域との連携を推進して、日ごろの教育活動において、教育的予防に重点をおき、学校組織全体で不登校傾向を示す生徒への早期対応と相談体制の充実を図っていくことが必要である。	A	10	小中連携で取り組んでいる「あいさつ」の成果が表れてきていると感じます。あいさつができる子は自己肯定感が高いと感じます。良い結果は認めてあげることこそが大切だと思います。不登校対応については、支援委員会を実施して、町会や児童委員、関係諸機関と連携しており、登校支援や見守りなども実施しており、協力体制がしっかりできていると思います。また、学校の対応も組織的に行われており、学校の対応については、個々の生徒に寄り添い、こまめに不登校生徒の家庭との連絡などもとっており、今後もこうした組織的な対応を継続していってほしいと思います。また、学校が落ち着いた環境となっている点についても、評価できます。これらは、日頃より先生方が生徒に寄り添った対応を継続していることの成果だと思います。生活アンケートでは実態として学校に行きたくないことがあるという生徒の回答も高く、中学校生活が大変と感じる面もあると思いますが、学校は楽しいので、授業や部活動など学校生活全体へ、前向きに取り組んでいくという気持ちをこれからも先生方がチームワークで対応して、生徒の前向きな気持ちを育んでほしいと思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3 3				B	1	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4 4				C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4 4				D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4 4						
		不登校出現の未然防止を図るとともに、不登校問題に係る取組を実施し不登校傾向を示す生徒の学校復帰率を伸ばす。	4：不登校生徒の学校復帰率が60%以上。 3：不登校生徒の学校復帰率が40%以上。 2：不登校生徒の学校復帰率が20%以上。 1：不登校生徒の学校復帰率が20%未満。	3 3						
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4 4	4：生徒アンケートの設問「運動会、学芸発表会など学校行事が充実している」で肯定的な回答が80%以上 3：生徒アンケートの設問「運動会、学芸発表会など学校行事が充実している」で肯定的な回答が60%以上 2：生徒アンケートの設問「運動会、学芸発表会など学校行事が充実している」で肯定的な回答が60%未満 1：生徒アンケートの設問「運動会、学芸発表会など学校行事が充実している」で肯定的な回答が40%未満	4 4	生徒の96.6%が「運動会などの学校行事の充実」に肯定的に回答している。体力の向上は、保健体育の授業だけでなく、運動会など学校全体で指導に関わることで、全校的な体育的指導につながっている。また、運動会は保護者への公開など保護者地域にとっても、体づくりへの啓発となっており、運動の大切さを発信する機会となっている。また、大田区よる5月と10月の早寝早起き朝ごはん運動に全校で取り組み、生活リズムの大切さの意識を高める機会とし、集計結果を学年だよりや保健だよりで発信することで、家庭での生活リズムの確保の意識を高めることができた。給食については、委員会や教科等での食育を推進し、「給食に満足している」の肯定的回答95.2%の結果を得ている。	A	11	運動会は励まし合って熱気が感じられすばらしかったです。生徒はみんな笑顔ではつらつとしていて、成果実感にとかりつながっている取り組みができていてよいと思います。また、給食試食会にも参加したが、栄養士・調理の方の愛情を感じ、「給食に満足している」生徒の多さにも納得した。これからも、「早寝・早起き・あさごはん」の取組を継続するなど、生活環境についての意識啓発や食育の推進を継続していたたき、学校行事を通して「運動の大切さ」「生活リズムを整える大切さ」の理解がより深まる指導を期待しています。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4 4				B	0	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4 4				C	0	
								D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4 4	4：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに80%以上。 3：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに60%以上 2：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに60%未満 1：生徒アンケートの設問「わかりやすい授業が多く満足している」及び「補習教室・英語カフェ等授業以外の学習環境が整えられている」で肯定的な回答がともに40%未満	4 4	「先生の教え方が丁寧でわかりやすい授業が多く満足している」と肯定的回答した生徒は、92.1%と例年と同水準である。教員の授業改善への取組とともにICT機器の授業への積極的な導入の効果と考えられる。また、区学習効果測定や全国学力調査、学力向上調査などの結果を分析し共有することで、各自の授業改善がなされている。保護者に対しても、年間4回の授業公開を行い、日頃の授業、生徒の取り組みの様子を保護者にも公開しており、保護者の肯定的回答も93%と高水準を維持している。教員の指導技術の向上として、管理職による授業観察を行うとともに、年次研修にあわせて研究校発表や指導教諭参観、授業改善セミナーへの参加を通して研鑽し、またその成果を校内へ還元するなど研修に努めている。生徒の教育環境の整備として、数学と英語による少人数指導は、肯定的回答は81.3%、補習教室など、授業以外の学習環境については83.4%となっている。毎週放課後の放課後補習や年6回の土曜補習など今後も継続して取り組んでいくが、参加生徒数などについて課題もあり、積極的な生徒の参加を呼び掛けていく。また、長期休業を中心に学年での学習補習教室も実施しており、より多くの機会を提供できるよう努めていく。	A	11	道徳授業地区公開講座や公開授業を参観して、先生たちの創意工夫と生徒たちの授業への真剣な取組が見られた。わかりやすい授業との肯定的な評価が高く、生徒の習熟に対応した指導やICT環境の整備など、先生方の授業改善などの取組もうかがえるので、こうした継続的な授業改善の取組を通して、学ぶ楽しさを生徒たちに実感させていってほしいと思います。また、土曜補習教室や放課後補習教室へのたくさんの生徒たちの積極的な参加に結び付くような取組も期待しています。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3 3				B	0	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3 3				C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4 4				D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4 4	4：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が90%以上 3：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%以上 2：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が60%未満 1：保護者へのアンケートの設問「保護者会、学年通信等で学校の様子がよくわかる。」での肯定的な回答が40%未満	4 4	学校運営協議会も3年目となり、学校経営への参画、学校の教育活動への協力、行事の企画運営など、さまざまに活動することができた。今年度は、定期演奏会や地域公開講座の企画運営など文化の発信としての役割を果たすことができた。また、今年度の学校における教育活動について適正に評価いただく機会をもつことができた。本校の教育活動の中において、スクールサポート三中と緊密な協力体制を構築し、今年度も年間6回の土曜補習教室の実施や、職場体験活動の事業所開拓、校内清掃活動などさまざまに協力いただくことができた。これらは、日頃よりの緊密な連携関係の成果である。地域における行事も再開され地域の運動会やイベントなどのボランティアについても募集がでてきたが、今年度は7件、のべ130名の参加となっており、回数や参加人数などまだまだの状況であった。「地域のボランティアに参加し、貢献しようとしている」の肯定的回答は55.3%と参加していない自覚のある生徒の実態が表れている。今後も地域との連携を深めて活性化につなげていきたい。なお、毎週1回の公園ボランティアはJRC部を中心として継続して実施することができた。なお、「学校は教育活動の様子を伝えている」について肯定的に回答した保護者の割合は96.2%と高く、日頃の様子については、学校だより、緊急メール、ホームページなどを活用して伝えている成果と考えられる。しかし、「学校からの配布物等が保護者にわたっている。」への保護者の肯定的回答は64.4%であり、生徒の提出物や配布物についての意識を高めるよう学校だけでなく家庭での働きかけも課題となっている。保護者への伝達等についてICTの活用など、今後は活用を探っていくことが必要である。	A	9	ボランティア活動がより一層活発に全校規模でできたらよいと思います。参加してくれることで、地域活動に参加することを楽しいと思ってくれるとうれしいです。また、学校、家庭、地域の連携をより深めるため学校運営協議会のさらなる活動を望みます。スクールサポート三中との協働もさらに深めていってほしいと思います。学校からの発信として、ホームページの活用などは学校が近い存在に感じるので、多くの方の目に触れてもらいたい。配布物についてはICTも活用しつつ、手紙を親に渡すことも重要なことである。今後も生徒、教職員、地域の方々から愛され続ける三中であってほしいと思います。
		学校運営協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4 4				B	2	
		学校運営協議会と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	4 4				C	0	
		生徒がJRCだけでなく様々なボランティア活動に参加するよう促す。	4：のべ参加生徒数が495人以上であった。 3:のべ参加生徒数が400人以上495人未満であった。 2：のべ参加生徒数が300人以上400人未満であった。 1：のべ参加生徒数が300人未満であった。	3 3				D	0	